

上智大学アンコール遺跡国際調査団の活動概要(2000年～2001年)

上智大学アンコール遺跡国際調査団長：石澤良昭（上智大学教授）

上智大学アンコール遺跡国際調査団は1980年以来カンボジア王国政府（APSARA）と協力しながら「カンボジア人による、カンボジア人のための、カンボジアの遺跡保存修復」を哲学に掲げ、アンコール遺跡の調査・研究・修復保存活動を続けています。2000年度は3回にわたる調査団を現地に派遣し、以下の調査研究活動等を実施いたしました。2001年度も同様の活動を計画中でございます。

1．調査団の派遣

- ・第29次調査団（2000年02月15日～03月31日。46日間）
- ・第30次調査団（2000年06月10日～09月05日。89日間）
- ・第31次調査団（2000年10月20日～12月31日。73日間）
- ・第32次調査団（2001年02月03日～04月15日。72日間）
- ・第33次調査団（2001年08月01日～09月15日。46日間）
- ・第34次調査団（2001年11月10日～2002年01月10日。62日間 予定）

2．調査研究にご協力いただいている関係機関

カンボジア王国政府文化芸術省、王立芸術大学、プノンペン大学、アプサラ（アンコール地方遺跡整備機構）、シェムリアップ州、フランス極東学院（パリ）、ユネスコ（カンボジア）、ワールド・モニュメント・ファンド（ニューヨーク市）、奈良国立文化財研究所、日本大学、東北工業大学、帝塚山学院大学、金沢大学、奈良女子大学、京都府立大学、早稲田大学政経学部、大阪市文化財協会、有田町歴史民俗資料館、東北大学、小杉石材店

3．現地における調査団の主な活動

- (1)建築班：アンコール・ワット西参道修復工事、バンテアイ・クデイ遺跡のレベル定点測定の継続、アンコール遺跡開口部調査（アプサラと共同事業）、遠隔地5大遺跡建築学予備調査、ベンメリア遺跡の予備調査、サンボール・プレイ・クック遺跡群の予備調査など
- (2)地質班：バンテアイ・クデイ遺跡の地下地盤の砂岩調査、共振法による石材診断、ヘリコプターによるカンボジア地形調査、遠隔地5大遺跡地質調査、シェムリアップ川の流域扇状地の地質調査、トンレサップ湖の形成調査
- (3)考古班：バンテアイ・クデイ遺跡のインベントリー補充調査、DO8 遺跡の実測図研究、東参道脇小祠発掘調査、遠隔地5大遺跡考古学予備調査、サンボール・プレイ・クック

ク遺跡群の調査研究など

- (4) 窯跡班：B1 窯の発掘調査・研究、B4 窯のトレンチ調査、出土品の整理・目録作成・公式報告書作成・窯跡保存公開事業（奈良国立文化財研究所と共同事業）、プノン・クレーン丘陵の窯跡地調査、窯跡発掘のための中堅幹部人材養成プロジェクト
- (5) 水利環境班：歴史水利都市調査研究、シムリアップ川の水質検査、トンレサップ湖の水質検査、プオック川・ロリュオス川の流域調査、トンレサップ湖の浮稲調査など
- (6) 村落・社会班：5 プームにおける農村調査、老人の社会活動参画プロジェクト、文化遺産教育、国立公文書館の教育関係資料調査、カンボジア社会復興調査・フランス植民地下のカンボジア社会研究、アンコール遺跡保存政策研究など
- (7) 民話・伝統文化班：村落の口承伝承調査研究、寺院壁画調査研究、民話絵本（2000年11月出版）および民話を小学生の補助教材読本に作成するプロジェクトなど
- (8) 遠隔地文化遺産調査班：コーケー、コンボンスヴァイ・プリヤカーン、サンポール・プレイ・クック、ベンメリア、バンテアイ・チュマール、プリヤ・ビヘアなど
- (9) 小学校リュック・ミッション班（ボランティア団体と共催）：シムリアップ州小学校へ手作りリュック・サック寄贈プロジェクト（鉛筆、ノート、消しゴム、サンダル、定規など封入）

4. 人材養成プロジェクト（人的資源開発、地域住民啓発プロジェクト）

(1) 学位取得のための大学院教育プログラム：

Ly Vanna：男、王立芸術大学考古学部 1995 年卒業、現在上智大学大学院地域研究専攻博士後期課程

Hor Sukuntheary：女、王立芸術大学考古学部 1996 年卒業、現在上智大学大学院地域研究専攻博士後期課程

(2) 2000 年度神奈川県海外技術研修事業

Chhean Ratha：男、王立芸術大学建築学部 1996 年卒業、コンピューターによる製図研修

期間：2000 年 5 月～2001 年 3 月、場所：神奈川県国際研修センター

Som Visoth：男、王立芸術大学考古学部 1997 年卒、遺跡博物館研修

期間：2001 年 5 月～2002 年 3 月、場所：神奈川県国際研修センター

(3) アンコール遺跡における専門研修プログラム（1998 年～現在）

Loeung Ravatthey（女、考古学研修生）、Som Visoth（男、考古学研修生）、Lam Sopheak（男、考古学研修生）、Nuon Mony（男、考古学研修生）、Tin Tina（男、考古学研修生）Chahan Ratha（男、建築学研修生）、Mao Sokny（男、建築学研修生）、Tat San Huot（男、建築学研修生）他に石工研修生 17 名

研修場所：上智大学アンコール研修所（シムリアップ市）

(4) アジア・ユース・フエローシップ（AYF）プログラム（日本国外務省）

Ek Bunta：男、上智大学大学院地域研究専攻博士前期課程卒業、現職 王立芸術大学講師

(5) 文部省国費外国人留学生

Keo Kinal：男、東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻研究生

Nhim Sutheavin：男、王立芸術大学考古学部 1996 年卒業、現在上智大学大学院地域研究専攻博士前期課程

(6)「上智大学アンコール研修所」への長期研修生の受け入れ

(考古学・建築学 計 18 名、石工 17 名)

(7)村人・小学生を対象としたバンテアイ・クデイ遺跡についての発掘現場説明会の開催

(1999 年 3 月、12 月、2000 年 3 月、8 月の 4 回)

(8)アンコール・ワット清掃ボランティア(クリーニング・オペレーション。日本・カンボジア両国の学生研修事業)の実施。第 1 回 1999 年 8 月 22 日～30 日(35 名参加)、第 2 回 2000 年 8 月 25 日～31 日(28 名参加)。

5 . 日本におけるシンポジウム・報告会等の開催

(1)第 6 回「アンコール遺跡を科学する」(活動報告シンポジウム)主催行事(1999 年 1 月 23 日)

(2)第 1 回「アンコール・ワット国際シンポジウム」共催行事(2000 年 2 月 19 日)

(3)第 7 回「アンコール遺跡を科学する」(活動報告シンポジウム)主催行事(2000 年 2 月 26 日)

(4)国際シンポジウム「アジアにおける歴史水利都市と文化遺産—巨大遺跡を農業と「水」のかわりから検証する - 」主催行事(2000 年 9 月 19、20 日)

(5)国際シンポジウム「アジアの文化遺産と 2 1 世紀—遺跡保存現場から文化遺産学に向けて - 」主催行事(2000 年 9 月 21、22 日)

(6)第 8 回「アンコール遺跡を科学する」(活動報告シンポジウム)主催行事(2001 年 4 月 21 日)

6 . 出版物・報告書の刊行

(1) 石澤良昭・坪井善明・遠藤宣雄共編『カンボジアの文化復興』第 1 号～17 号(1984～2000)
上智大学アジア文化研究所、2000 年 12 月

(2)『アンコール遺跡を科学する』No.1～7(1994-2000)

(3) 盛合禧夫編『アンコール遺跡の地質学』(「アンコール・ワットの解明」第 2 巻)
連合出版 2000 年 4 月

(4) 中尾芳治『アンコール遺跡の考古学』(「アンコール・ワットの解明」第 1 巻)
連合出版 2000 年 4 月

(5) 坪井善明編『アンコール遺跡と社会文化発展—遺跡・住民・環境—』
(「アンコール・ワットの解明」第 4 巻)連合出版 2000 年 12 月

(6) 片桐正夫編「アンコール遺跡の建築学」(「アンコール・ワットの解明」第 3 巻)
連合出版 2000 年 12 月

(7) 石澤良昭共著『アンコールの王道を行く』淡交社 1999 年 1 月

(8) ISHIZAWA, Y: A / bngtheRtlyzYIHDa(Zs toAl2gknz; Weatherhnl, NewYork,1999

(9) 石澤良昭・荒樋久雄・丸井雅子共著『アンコール・ワットへの道』JTB 出版部 2000 年 2 月

(10) レイ・タン・コイ『東南アジア史』(新增補版)(石澤良昭訳)白水社 2000 年 4 月

以上